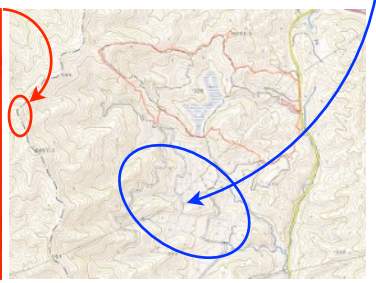
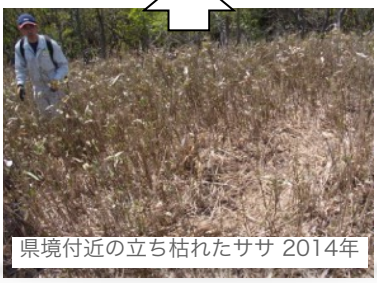
Yamakado News Letter

山門水源の森を
次の世代に引き継ぐ会

山中牧場跡の今年9月の様子

県境付近の様子 2016年





県境付近の立ち枯れたササ 2014年

ダンドボロギク、メリケンカルカヤが指数関数的に増殖中　大きな課題

ダンドボロギクは北米原産の帰化植物で、山門水源の森では天然更新試験地で散見されていましたが、昨年あたりから湿原周辺でもよく目につくようになりました。この状況にやや余裕を構えていたのですが、ショッキングなことに2016年には県境付近で大繁殖しているのを確認。綿毛が北風に乗って湿原方向に大量に飛んでいる状況を見るにつけ、もう何年も前からこうしてタネが湿原に供給されていたに違いないと思った次第です。今年は県有林南側の牧場跡でも大量繁殖しているのが確認されました。風向きに関係なくタネが湿原に飛んでいる状態といえます。加えてメリケンカルカヤの増殖も確認され、こちらの対応も急がれます。見つけ次第引き抜いていますが、人手間も少なく、処理が追いつかないのが実情です。逆にこれら外来植物は急激に増殖して生息圏を拡大しており、在来種への悪影響が心配されます。

沈砂池周辺に繁茂するメリケンカルカヤ

除去作業を手伝ってくれた永原小児童ら 9/25

Photo by Fujimoto H

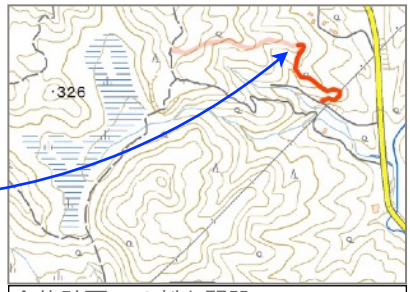
作業道、予定の200mに達する

再生したミニ湿地に映る総見山

今年度申請した県協働事業での作業道開設計画ですが、予定距離の200mには達しました。しかし、現状の道幅は作業重機のバックホーが通行できる1.5m程度です。アカガシ林管理や獣害対策の資材運搬に車が利用できるためには幅員（道幅）2.5mは確保したいところです。そうすると花崗岩の脆い地盤を掘削して拡幅するので、谷側の路肩補強が重要になります。路肩補強には間伐したヒノキ丸太を利用します。

掲載した写真はヘアピンカーブ作業中のものです。ヒノキ林の奥の林が明るい黄緑色なのがお分かりかと思います。これらはヒノキ林ではありません。つまりここに到達するまでは、広葉樹林を通ってきたのでヒノキ材は僅かしか調達できませんでした。ですからここまでの経路の路肩補強を、ここで調達したヒノキ材を利用して、ようやくこれから行うことになります。

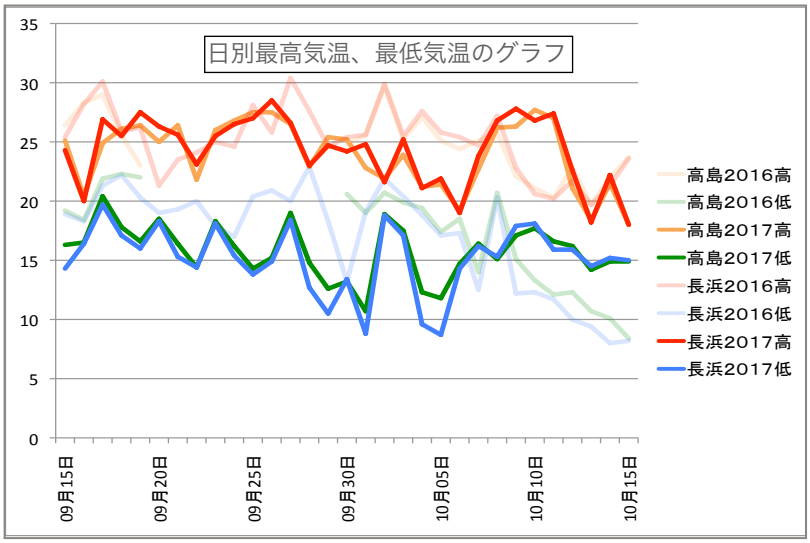
難関のヘアピンカーブ作業中 10/17



全体計画の４割を開設

今月の森の様子

先月号で、今年は例年に比べキノコの発生が少ないように思うと書きましたが、その傾向は今月も続いています。右に気象庁の過去データからこの１月間の日別最高、最低気温を取り出し、グラフ化して見ました。最高気温、最低気温ともやや低い傾向にあるようです。そんな気候の状態も動植物に何らかの影響を与えていると思われます。さて、今年の紅葉はどんな感じでようか。



（付属湿地の３点　左からエゾリンドウ、イトイヌノヒゲ、ゲンノショウコ）